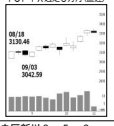
（日刊）第21998号　（昭和19年5月30日第三種郵便物認可）

今日の紙面

都心の不動産価格、10年後は2倍に……2面
任天堂 一時10%高で8月高値に接近……2面
ＩＰＯ社長会見 NE ……2面
私の尻馬投資法 …最終面
米藏のＦＸ最前線 …最終面

TOPIX週足3カ月(直近)



日本証券新聞

Nihon Securities Journal since 1944, a member of JIA

2025年[令和７年] 11/6 木曜日（先勝）

1カ月4,988円／1部240円

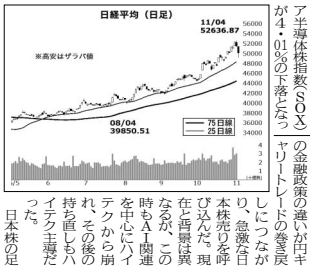
日経平均 50,212.27 −1284.93（−2.49%）

日本証券新聞 Digital
www.nsjournal.jp

発行所© 日本証券新聞社2025　〒104-0033　東京都中央区新川２－５－２　土曜・日曜・祝日は休刊　日本証券新聞 Facebook https://www.facebook.com/nsjournal　販売に関するお問い合わせ TEL 03-6661-9415　記事に関するお問い合わせ TEL 03-6661-9419（午前10時から正午まで）

日米市場に高値警戒感　ＡＩ関連が下げ主導

日経平均 一時2400円安で５万円割れ



5日の東京市場では日経平均株価が一時前比2423・62円安の4万9073・58円と5万円を割れた。終値は同比1284・93円安の5万2127・27円だった。

AI関連株がけん引役となり、10月の日経平均は月間で7478円、16・6%の上昇を見せていた。ここまでの急騰で高値警戒感が強まっていたところに、米国大手金融機関トップの発言が急落の引き金となった。

ゴールドマンサックスのデービッド・ソロモンCEO（経営最高責任者）が香港での会合で、相場が10～20%下がる可能性がある、モルガンスタンレーのデイビッド・ピックEOも10～15%の調整の値動きを表にまでめてみた。このときは米国が利下げ、日本は利上げの方向性が明確になり、日米金融政策の違いが円キャリートレードの巻き戻しにつながり、急激な日本株売りを呼び込んだ。現在と指摘は異なるが、この時もAI関連を中心にハイテクから崩れ、その後の持ち直しもハイテク主導だった。

日本株の足元を見るとファンダメンタルズが順調に上向いている。ここまでの決算を受け、野村証券では4日にTOPIXのEPS（1株当たり利益）見通しを10月7日時の予想比で2025年度を前期比0・7%増、26年度を同13・2%増、26年度を同13・8%増と引き上げている。株価指数見通しもTOPIXは25年末3330→3400円→5万5000円、26年末3300→3600円→5万9000円→5万5300円とした。中長期的には市政権戦略が日本経済と株式市場をけん引すると期待される。ここから先も波乱相場は仕込みのチャンスになるとみておきたい。

2024年8月急落時の日経平均株価の推移			
	日経平均（円）	前日比（円）	騰落率（%）
8月1日	38126.33	▼975.49	▼2.49
8月2日	35909.70	▼2216.63	▼5.81
8月5日	31458.42	▼4451.28	▼12.40
3日間合計		▼7643.40	▼19.54
8月6日	34675.46	3217.04	10.23

中原証券

クラシコ 2.35倍高

クラシコ（442A・G）は公開価格（1390円）の2.35倍の3270円で初値をつけた。その後は高値3315円、安値2888円、資金吸収額4・5億円と久しぶりの東証小粒案件であり、軽量感から人気化した。

医療用高酸バレルメーカー。デザイン性、機能性、耐久性を兼ね備えた独自のポジションを確立している。会社側は今後は国内シェアアップと海外展開により売上高はCAGR（年平均成長率）20%程度、中期的に営業利益率は20%程度に高められるとの見方を示した。

5日上場

トヨタ、恒例の乱高下後は下に…

増額幅3分の1戻しにとどまる

決算発表だんだん遅くなるトヨタ自動車（7203・P）の四半期決算発表が2月が1時間25分、5月が1時25分と、だんだん遅くなる傾向。前回の4・6月期決算発表時に通期営業利益見通しを3兆8000億円から3兆2000億円に引き下げたが、これは関税の影響を保守的に見積もったもの。足元の世界生産台数が順調なこともあり、一転となって増額するかが焦点となっていた。中間決算発表時では「直近10年間で7回目の上方修正」とはなったが…。新たに示した通期営業利益は3兆4000億円、いわば3分の1戻しにとどまり、期待感が剥落した格好だ。なお純利益については68・18%のリカバーで、こちらは・3分の2戻し」となっている。

2月が安値に戻した後に前安値を見通しを3兆8000億円に引き下げたが、これは関税の影響を保守的に見積もったもの。足元の世界生産台数が順調なこともあり、一転となって増額するかが焦点となっていた。中間決算発表時では「直近10年間で7回目の上方修正」とはなったが…。新たに示した通期営業利益は3兆4000億円、いわば3分の1戻しにとどまり、期待感が剥落した格好となった。

政府の成長戦略会議スタート

AIなど17の重点分野

政府の日本成長戦略会議の初会合が4日行われ、急騰した株価の下支へ狙いを明確にした。高市早苗首相は「強い経済を実現するための成長戦略を強力に推進する」と指示した。また、新技術立国・戦略力強化など8つの分野断例課題を浮彫りにした。

岸田、石破内閣と続いた「新しい資本主義」実現会議」は廃止する。ただし、岸田文雄元首相は「成長戦略・部長」として自民党の成長戦略本部長を務めた。

高市氏は成長戦略の肝は「成長投資」としていた。「新しい資本主義」実現会議」は廃止する。ただし、岸田文雄元首相は自民党の成長戦略本部長として、大胆な投資促進、国際展開支援、人材育成など多角的な観点から、国家として関連企業に追い風となるだろう。

（1）AI・半導体（2）造船（3）量子（4）合成生物学・バイオ（5）航空・宇宙（6）デジタル・サイバーセキュリティ（7）コンテンツ（8）フードテック（9）資源・エネルギー安全保障（GX（グリーントランスフォーメーション）（10）防災・国土強靭化（11）フィジカルインターネット（12）ブロードバンド（13）マテリアル（重要鉱物・部素材）（14）港湾ロジスティクス（15）防衛産業（16）海洋情報通信（17）海洋。

興隆を迎えました。今期は米国ツアーで5勝しています。

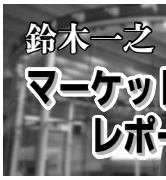
明確に目標を定めて計画を立てて、それを実行すれば日本人でも世界と十分に戦えるということが明らかです。日経平均は5万2000円に乗せましたが、果たして10年後にはいくらまで上昇しているのでしょうか。

現在の日本政府は国を挙げて金融資産の国を自指そうとしています。東証、および金融も上場企業に対してこれまでは以上に経営効率を高める要請を出しています。目標を高くすればそれに向かって変化が生じます。10年後に日経平均は果たしていくらになっているでしょうか。今の水準でとどまっているとは思いませんが、目線を高く掲げて進みたいものです。

多少の波乱は覚悟して、株式市場の上昇はまさに始まったばかりと言えそうです。**愛三工業（7283・P）、長瀬産業（8012・P）、コムシスHD（1721・P）、イーグルＴ業（6481・P）、八十一銀行（8359・P）**に注目しています。

波乱は覚悟、株式市場の上昇は始まったばかり

出遅れセクターの水準訂正に期待



鈴木一之です。3連休前の先週の驚きもうあっさりと素通りしてしまいました。慣れとは恐るべきことです。

ここまでの上昇スピードが速いため、値固めの方に多少は一服することも考えられますが、それでも史上最高値を更新してこれが最終のコール、大天井であるとの見方も市場ではないように捉え方も市場ではないようなのではないかと思います。それだけ先高観が強いようにみられます。

先高観をもたらすひとつの要素が物色の偏りです。半導体関連株の一角が猛烈な上昇力を持って市場に君臨していますが、徐々に横への広がりが見えてきました。これまで出遅れていた他のセクターに物色が少しでも波及するだけで、高値圏にあってもまだまだ上昇力が得られるはずです。その物色の広がりをたらすひとつのきっかけが、目をのどこう住環境を迎えている決算発表です。決算内容によっては半導体以外の銘柄でも十分に株価指数を押し上げる上昇を例じるとみられます。

もうひとつの要素が政策上の後押しです。最近の話題と興味深かったものは、NTTドコモ、NEC（6701・P）が通信機器の受注獲得を目指して東南アジア市場に初めて参入するというのです。インドネシアの大手通信キャリアから1000億円規模の高速通信設備の受注獲得を目指すというもので、11月2日（日）の日本経済新聞に掲載されました。1000億円のうちの300億円を2026年度中に獲得しようというものです。これには日本政府も資金面でバックアップ体制を見せています。高速通信設備の分野で日本企業が世界との競争に敗れるとなると、通信インフラという国家機器の非常に高いレベルで海外企業の後手に回ってしまいかねず、この分野では問だけに任せず国が最初から関与してゆく方針です。

通信機器はファーウェイ、エリクソン、ノキアが界シェアを大きく引かうしており、日本メーカーは1%程度しかシェアを取れないという状況です。経済安全保障に直結する通信機器の分野で競争力を確保しようというものです。

先行事例はあります。日本の女子プロフェッショナルが今世界を席巻しているというお事です。同じ日曜日の日本経済新聞1面に掲載されていました。現在の世界ランキング上位50に入る女子プロゴルファーが9人もいています。うち4人は25位以内にランクインしています。10年前は2人しか入っていなかったことからすると大変な躍進です。

これは2011年に小林浩美プロが会長に就任して「世界で勝つ」という目標を立てたところから始まります。2013年に長期計画を策定して、それから10年でこの目標を達成しました。今期は米国ツアーで5勝しています。

明確に目標を定めて計画を立てて、それを実行すれば日本人でも世界と十分に戦えるということが明らかです。日経平均は5万2000円に乗せましたが、果たして10年後にはいくらまで上昇しているのでしょうか。

現在の日本政府は国を挙げて金融資産の国を自指そうとしています。東証、および金融も上場企業に対してこれまでは以上に経営効率を高める要請を出しています。目標を高くすればそれに向かって変化が生じます。10年後に日経平均は果たしていくらになっているでしょうか。今の水準でとどまっているとは思いませんが、目線を高く掲げて進みたいものです。

多少の波乱は覚悟して、株式市場の上昇はまさに始まったばかりと言えそうです。**愛三工業（7283・P）、長瀬産業（8012・P）、コムシスHD（1721・P）、イーグルＴ業（6481・P）、八十一銀行（8359・P）**に注目しています。

この株 王手

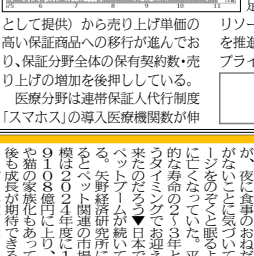
イントラスト（7191・S）

2ケタ増収益の好決算発表

医療・介護分野が成長期入り

イントラストは主力の家賃債務保証が安定成長を維持。加えて新分野である医療費用保証、介護費用保証が軌道に乗り、高い伸びを示している。

10月29日発表の今3月期第2四半期（4～9月）決算は売上高58億6000万円（前年同期比15.8%増）、営業利益13億8800万円（同22.4%増）だった。成長のけん引役である家賃分野は初回・更新保証料ともに順調、同社の特徴でもある審査基準の厳格化・効率的な回収活動が寄与した。また、ソリューション事業（家賃債務保証で培ったノウハウを独自の業務支援サービスとして提供）から売り上げ単価の高い保証商品への移行が進んでおり、保証分野全体の保有契約数・売り上げの増加を後押ししている。



医療分野は連帯保証人代行制度「スマホス」の導入医療機関数が伸長。売上高は前年同期比41.6%増だった。介護分野は2Q単体（7～9月）で新たに31事業者に導入し、売上高は同55.4%増に。傷害保険付き商品が好調で、保証付保率の向上に寄与した。こちらも非常に引き合いが多く、「逆に人数足りなくならないよう適正にリソースを配置し、引き続き拡販を推進していく」（桑原豊社長）。

プライム再上場への意欲も。（N）

ＰＥＲ	＝15.1倍
ＰＢＲ	＝3.0倍
配当利回り	＝3.34%

5日新規上場

クラシコ（442A・G）
初値 3270円
公開価格 1390円

SYSTEM CREATION COMPANY
価値創造企業
MUSASHI
株式会社 ムサシ
IR資料請求先：広報室
証券コード番号:7521
（IR情報満載のホームページ）
https://www.musashinet.co.jp/
〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目20番36号
TEL.03(3546)7710 FAX.03(3546)7831
●情報・産業システム機器●印刷システム機材
●金融汎用システム機材●選挙システム機材
●紙・紙加工品

DATA BOX（5日）

プライム

米国サブプライム住宅ローン危機を見越した「世紀の空売り」のバーリ氏のファンドが、エヌビディアのプットオプション（売る権利）を取得していたことが判明。ＡＩ・半導体関連が売られ、日経平均は前引け直前に４万9000円に接近。後場は５万円を挟んだ動き。ソフトバンクGやアドバンテスト が売られ、イビデンも安い。任天堂は「スイッチ２」の上方修正で上昇。三井物産は通期予想の上方修正と自社株買いの発表で、大林組は業績上方修正で高い。

日経平均	50,212.27	▼1284.93
ＴＯＰＩＸ	3,268.29	▼41.85
プライム指数	1,683.06	▼21.43
出来高	34億4,287万株（4日30億5,738万株）	
売買代金	9兆582億円	
時価総額	1106兆4,413億円	
値上がり	420銘柄	値下がり 1145銘柄
変わらず	50銘柄	
新高値	38銘柄	新安値 27銘柄
騰落レシオ	98.56%	△2.70

日経平均サイコロ（7勝5敗）
○○●●○○●○○○●●

スタンダード

日本電子材料や防衛関連の日本アビオニクスが安い。ビットコイン関連の堀田丸正も下落。ウェーブロックは10月31日に発表されたＴＯＢ価格を上回った。ホリイフードは株主優待制度の新設でストップ高。千代田化工建設や指月電機は業績予想の上方修正で買われた。

スタンダード指数	1472.14	▼8.02
出来高	5億63万株	
売買代金	1,853.70億円	
時価総額	31兆3,178億円	

スタンダード指数サイコロ（7勝5敗）
○●○○○○●●○○●●

グロース

データセクションやタイミー、ＦＦＲＩセキュリティが売られ、ビットコイン関連のコンヴァノは安値更新。ハートシードは国内での治験開始が正式に可能となったと発表したことで買われた。免疫生物研は米国での特許査定の思惑。直近新規公開株のＮＥが大幅高。

グロース指数	921.71	▼4.91
グロース250指数	708.53	▼3.62
出来高	2億3,656万株	
売買代金	1,245.05億円	
時価総額	8兆6,709億円	

グロース指数サイコロ（6勝6敗）
○○○●●○●○○●●

円相場（14時）　153.48－153.49　高値152.95　安値153.74

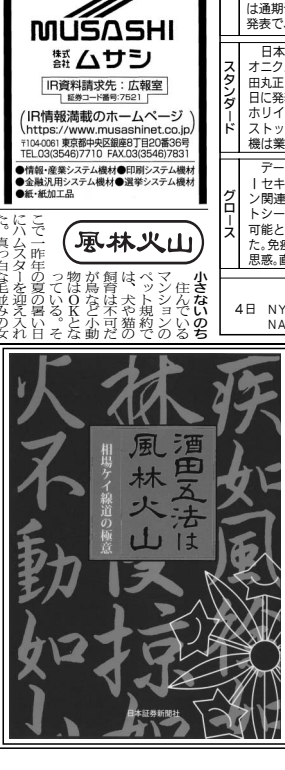
4日					
NYダウ	47085.24	▼251.44	S＆P500指数	6771.55	▼80.42
NASDAQ指数	23348.63	▼486.08	米10年債利回り	4.081%	▼0.031

風林火山

小さないのち

住んでいるマンションのペット規約で「犬や猫の飼育は可だが鳥など小動物はOK」となっていた。真っ白な毛並みの女の子好物のカボチャを食べる時に餅のように丸まるので、「おもち」と名付けて大切に育てていた。ある我が家のアドルが先日、天国へと旅立ってしまった。その日の朝は食欲も普段通りだったし、部屋中をひとしきり駆き回っていたのだが、夜に食事のおねだりがないことに気づいてケージをのぞくと眠るように亡くなっていた。平均的な寿命の2～3年という▼ペットショップで買ってきたのだろう▼日本ではペットブームが続いているとペット関連の市場規模は2024年度に1兆9108億円にと1、犬や猫の家族にもあって今後も成長が期待できるという。27年度には2兆円の大台を突破する見通しで、三菱マテリアル、清水建設、日本航空といった名だたる企業の前期売上高を超える市場とみなされる▼突然の別れにふさぎこんでいた娘も、天寿を全うしたと分かり少しだけ元気になった。娘を大きく成長させてくれた小さないのちに感謝。きっと「虹の橋」で待っていてくれる。ペット保険のアニコムHD（8715・P）。（飛行船）

日本証券新聞公式YouTubeチャンネル
投資家がおさえておきたい注目ニュースを
日本証券新聞からピックアップ
たけぞう氏とまなぶ投資
ショート動画を続々公開中!!
投資の疑問・質問も募集してます
株のはなし、人気講師のはなしを、いつでも、何度でも。
ほぼ毎日更新！▶▶ 日本証券新聞 YouTube 検索



刊行55年 証券界の超ロングセラー
令和改訂版 反響続々
あの一目山人翁も絶賛――
「相場変動の神髄をつかんでいる」
（昭和44年『一目均衡表』）
酒田五法は風林火山
相場ケイ線道の極意
定価：本体1715円＋税　日本証券新聞社